

【人権尊重のまちづくりスローガン】
「自分が人からされたり 言われたりしていやなことは、自分には人にしない 言わない。」

<ある日のAさんたちの会話>

A: そういえばこの間何人かでご飯に行ったときに、Cさんから興味深い話を聞いたんです。

B: どんな話?

A: 日本人はよくOKサイン出しちゃうじゃないですか。フランスに行ったら使わない方がいいらしいです。

B: えっ! ? どうしてダメなの? ?

A: なんでも、OKサインをフランスの人にすると、役立たずなどの侮辱的な意味で受け取ってしまう人もいます。



B: そうなんだ! 間違っちゃいそうだね。

A: ほんとに何気なく使ってしまうことがありますよね。

B: いろいろな国にそれぞれの慣わしなどがあるから、それこそ旅行に行く時は、前もってその国のことを調べておくのは大事だろうね。

アメリカのテーマパークで、着ぐるみを着て入場者と記念写真をとるサービスを行っていました。その時、着ぐるみの方は、指でOKサインを作り写真に写っていたそうです。以前なら何でもなかったことですが、OKサインは白人至上主義のシンボルとして使われるようになってきており、元の「いいよ。分かった。」の意味より、人種差別の意味に解釈されることも増えています。抗議を受けたパークの責任者は謝罪をし、OKサインを作った着ぐるみの従業員の方は解雇になったというニュースが報じられました。グローバル化社会の中、同じしぐさが国やその地方によっては、相手を傷つけるしぐさになることも知っておきたい一つですね。

目次

- いじめのない筑紫野市をみんなで作ろう! 2
- 娘と私にできること..... 3
- アルハラになっていませんか? 4
- 無知こそ差別の始まり 5
- 地域デビュー 6
- 頑張り「育メン」..... 7

2019年



12/1

いじめのない筑紫野市をみんなで作ろう！

いじめ しない・させない・みのがさない

子どもには人間として健やかに生きていくための当然の権利があります。しかし2018年度の文部科学省の調査結果によると、いじめで多かったのは、「冷やかしいやからかい、悪口やいやなことを言われる。」「軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。」「仲間はずれ、集団による無視をされる。」でした。

いじめを受けた子どもにとって、学校生活はつらく苦しいものであり、不登校や自死させてしまうなどの痛ましい報道が増えています。いじめは、命に関わる行為であり、「昔もあった。」などの一言ですまされない大きな人権侵害行為です。

いじめを「しない」・周りの人に「させない」・いじめを「みのがさない」という強い気持ちをもつためには、次のことが大切です。

- 大人が、子どもたちに対して「いじめ」が許されないことを教える。
- 「いじめ」をさせない・みのがさない方法や必要性を教える。
- 子ども同士がコミュニケーションを深め、互いを思いやる気持ちを育てる。

いじめをなくすには大人の関わりが不可欠です。だからこそ、子ども・学校・家庭・地域が一体となって子どもを育てていきましょう。

いじめのない筑紫野市をつくるために

【学校】

- だれもが、安心して、豊かに生活できる学校づくりをめざす。
- 児童生徒へのアンケートや個別の面談など、児童生徒一人ひとりの状況の把握に努める。

【子ども】

自分のまわりで、いじめがあると思われたときは、その人に声をかけることや、まわりの大人にすぐに相談することなどに努める。

【家庭】

- 子どもの話を聞く時間をつくる。
- 子どもの様子にアンテナをはる。
- 保護者同士の関係をつくる。
- 「SOSは出していい」ことを伝える。

【地域】

- 大人が自分の地域に関心や関わりをもつ。
- 子どもにとって「心の居場所」「社会生活や社会性を磨く」「人との関わりを学ぶ」場として子どもと関わったり声をかけたりする。

娘と私にできること

私には、生徒会の役員を務めている中学2年生の娘がいます。ある日、娘からこんな話を聞きました

娘の話

この前、友だちが「も～、こんなこともできん。私『ガイジ』やん」って言ったの。お母さん、『ガイジ』って言葉、知ってる？『障がい児』っていう言葉の一部で、相手を攻撃したり、自分ができなかった時などにこの言葉を使って自分が劣っているように見せたりする子がいるんだ。こんな言葉よくないし、なくさないといけないとは思って、その場では誰も何も言えなかった。

その時ね、Aさんが泣いてたんだ。Aさんには『障がい』のある弟さんがいるんだって。だから、毎日一緒に生活している弟さんのことや、一生懸命に育てているお父さん、お母さんの顔が浮かんで悲しかったのだと思う。こんな言葉はなくさないといけないよね。それで、先生たちにも相談して、生徒総会で全校生徒に呼びかけることにしたの。

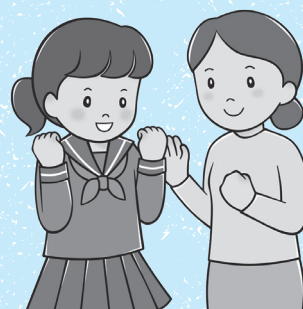
当日は、生徒会の役員が全校生徒の前で、自分も発言したことがあってとても後悔していること、わかっているつもりでも、本気でなくそうと思ってなかったことなど反省する言葉を言った。それから「私たちは、こんな言葉は絶対に使わない。みんなできなくしていきましょう。」と呼びかけたんだ。そしたら、聞いていたみんなも、それぞれが考えていること、感じたことを発言してくれた。Aさんも、手を挙げて、「これまでこんな言葉は嫌だと思っていたけど、何も言えなかった。でも、黙っていることも発言を許しているのと同じだって気づきました。これからは、だめなことはだめだと言いたいと思います。」と言ってくれた。

私、絶対こんな言葉はなくしていこうと思ったよ。

心豊かな社会のために

私は、娘の話を聞いて、子どもたちの行動力のすごさに感心するとともに、『ガイジ』のような人を差別する冷たい言葉が、子どもたちの間で使われていることに驚きました。そして、私自身の言葉は娘にどう受け止められているのだろう？と考え、無意識に人を差別したり、思いこみで話したりしていないか、あらためて自分の言葉を振り返りました。

子どもの発言や行動、考え方は大人の世界をそのまま反映していることがあります。こんな冷たい言葉のない社会にしていくために、子どもたちが立ち上がったのならば、大人である私も何かやらなければ、と思います。



アルハラになっていませんか？

成人すると、大学のサークル、会社、友人や知人との飲み会など、身近にお酒を飲む機会が増えてきます。

何気ない飲み会の中で、知らないうちにアルハラをしている場面に出会うことがあります。

アルハラとは

アルコール・ハラスメントの略で、飲酒に関連した嫌がらせや迷惑行為のことで、人権侵害にあたります。特定非営利活動法人ASK（アルコール薬物問題全国市民協会）によると、次の5項目と定義しています。

- 飲酒の強要
 - イッキ飲ませ
 - 意図的な酔いつぶし
 - 飲めない人への配慮を欠くこと
 - 酔ったうえでの迷惑行為
- 自分自身のアルハラ度をちょっと振り返ってみませんか？

アルハラチェックリスト

- 飲み会を盛り上げるために「イッキ」は必要。
- 相手にアルコールを勧めるのは「礼儀」だ。
- 訓練すればアルコールに強くなる。
- みんなで酔っ払ってこそ連帯感が生まれる。
- 相手の本音を聞こうと思ったら、まず飲ませるのが得策。
- 飲めない男性は、なんだか男らしくない。
- 乾杯は必ずアルコールですべきだ。
- 酔いつぶしても、吐かせるか寝かせておけば大丈夫だ。
- 女性がお酌するのは当たり前だ。
- 未成年でもほんの少しなら飲ませてもかまわない。
- 「あのときは酔っていたから」と言い訳することが多い。

※この中で、1つでも当てはまったら、あなたはアルハラをしている可能性があります。

「特定非営利活動法人ASK」より出典

相手のことも考えて

日本人の約40%は遺伝的にお酒に弱い体質、約5%の人は、遺伝的にお酒をまったく飲めない体質であると言われています。よく「訓練すればアルコールは強くなる。」「吐けば強くなる。」とか言う人がいますが、それを押し付けて飲酒を強要するのは、アルハラです。

このようなことをなくすには、お酒を飲んでも「他人に強要しない。」「迷惑をかけない。」「記憶をなくすまで飲まない。」など、飲酒する本人の節度も必要です。また、飲み会に同席している人は、アルハラをみたら「たしなめる。」「注意する。」などの勇気ある行動が必要です。

お酒を飲める人、飲めない人の双方が楽しめてこそ、親睦が深まり、楽しい飲み会となります。

これから飲み会に参加するときは、相手のことも考えて、みんなが楽しめる飲み会にしていきたいですね。

無知こそ差別の始まり

2019年7月24日、安倍総理は、ハンセン病家族訴訟原告団と面会しました。
総理の冒頭の挨拶（抜粋）

ハンセン病に対する極めて厳しい差別と偏見は、本日ここにいらっしゃるみな様に対しても向けられてきました。これは、否定し難い厳然たる事実であります。その結果、本当に長い間みな様にとって大切な人生において、大変な苦痛と苦難を強いることとなってしまいました。政府を代表して心から深くお詫び申し上げます。

内閣総理大臣として、みな様が経験された筆舌に尽くし難いご苦勞を、これ以上長引かせるわけにはいかない、きちんと責任を果たさなければならないと考えました。先般、判決受入れを決定いたしました。それにとどまらず、今回訴訟に参加されなかった方々を含め、新たに補償するための立法措置を講ずることといたします。さらに、さまざまな問題の解決に向けて、協議の場をすみやかに設け、みな様と一緒に差別・偏見の根絶に向け、全力を尽くしていくこととお約束いたします。

改めて、みな様が強いられた苦難と苦痛に対しまして、深く深くお詫び申し上げます。

ハンセン病

かつて「らい病」と言われ、手足などの神経がまひし、皮膚のただれや体の変形などが表れる病気です。**感染力は非常に弱く日常生活で感染することはありません**。以前は感染すると信じられ、日本では医学的根拠のないまま隔離が始まり、1996年に廃止されるまで強制隔離が行われ、いちじるしい人権侵害が続きました。

引き裂かれたハンセン病元患者と家族

家族も偏見と差別の中で生きぬいてきました。一家の暮らしが壊され、親を奪われた子どもは大きな影響を受けました。

家族に患者がいることが知られて、学校や職場、地域での居場所を失い、就職や結婚を拒まれた例も相次ぎました。こうした生活をハンセン病元患者やその家族は長い間強いられてきました。

原告団長 林 力さんの思い

総理の挨拶に対し、原告団長の林さんは「この問題に対する誤った政策のもとで培われた偏見、無知…。無知こそ差別の始まりでありますので、そうした問題解決に全力を注いでいただきたい。」と言われました。

国の政策を正しいことだと信じた多くの人々の偏見や無知が、当事者を苦しめ続けました。私たちにできることは、差別・偏見の根絶に向け、正しく知って行動するため、学び続けることではないでしょうか。

ハンセン病の歴史

- 1931年 「旧らい予防法」成立
隔離政策の根拠となる
- 1953年 「らい予防法」制定
- 1996年 「らい予防法」廃止
- 2001年 熊本地裁判決 元患者に補償金を支払う「ハンセン病補償法」成立
- 2019年 熊本地裁判決 国の責任を認め賠償命じる
安倍首相ハンセン病元患者の家族と面会し謝罪



地域デビュー

ほうげんぎょう

毎年正月に地元で行われる「ほうげんぎょう」。青竹を束ねて組立てた櫓やぐらに火をつけ勢いよく燃やし、その年の五穀豊穡や無病息災を祈る伝統行事である。輪番で当番がまわってきたこともありましたが、地域デビューのきっかけになると思い、その準備に参加させていただきました。

準備当日、初めて会う方がほとんどで少し緊張していた自分に、高齢者の方から「よく来てくれたね。」と親しく話しかけていただき、緊張の糸もすぐにほぐれたことを思い出します。

作業がスタートすると、それまでのなごやかな雰囲気から一転、作業の中心となる高齢者の方は真剣な表情でチェーンソーや斧などを使い、手際よく竹を切り始めました。そして、時にはその使い方を私たちに教えながら作業を進められました。体力には少し自信があったつもりですが、逆に高齢者の方に「大丈夫？少し休もうか？」と声を掛けて気づかせていただきました。

切られた竹や笹を運び、高齢者の方、地域の皆さんと一緒にやぐらを立てたときの達成感は、今でも忘れられません。

そして、何よりもこのような地域行事に参加したことで、いろんな方とコミュニケーションを図ることができたことが、自分にとって大きな財産になったのではないかと思います。

また、高齢者の方と触れ合っただけで知識や経験はもちろんのこと、他人への心づかいや人との関わり方など、大切なことを学ばせていただきました。

私はこの地域デビューをきっかけに、けっして無理はせず、できるときに参加するという気持ちで地域活動に参加するようになりました。



出会いを大切に

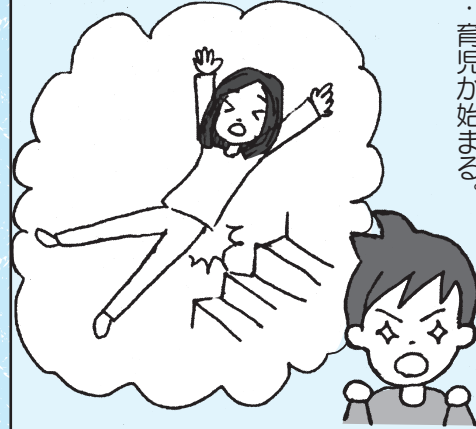
最初は「こんにちは。よろしくお願いします。」と軽くあいさつを交わす程度でしたが、夏祭り、運動会、餅つき大会、地域清掃など、高齢者の方からいろんなことを学びました。共に一緒に汗をかくことを重ねるうちに、少しずつ顔も覚えてもらい、今では普段の生活の中でもあいさつを交わして、気軽に話せるような関係を築くことができています。そして、次第に、公民館にも出向くようになり、そこで出会う子どもたちや地域の人たちと触れ合うことも多くなりました。

私は地域デビューをきっかけに、いろんな世代の人たちとの交流を深めることで、自然に相手を思いやる気持ちも育てられてきたと感じています。

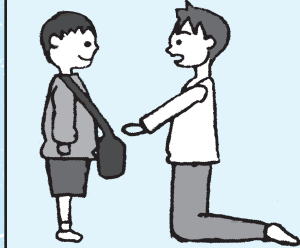
これからも地域の伝統行事に触れ、そこから生まれる出会いを大切にしていきたいと思っています。

頑張れ「育メン」

① 私の家は共働き夫婦。ある日、妻がけがをした。妻が動けない中で家事・育児が始まる。



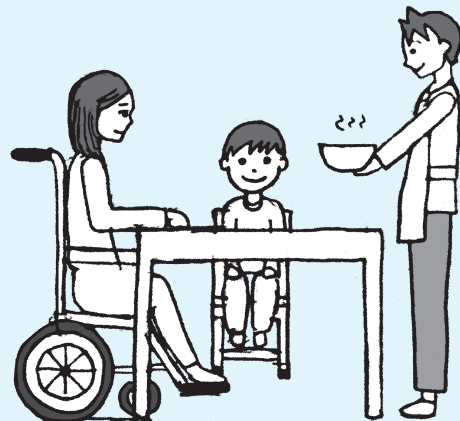
② 子どもを保育園に送るために早めに起床。準備は大忙し。



③ まだ食べてない!



④ 今まで家事分担していたつもりだけど、名も無き家事のその多さに気づいた。



⑤ お母さん大変ですけど、お父さんが育メンだから安心ですね。

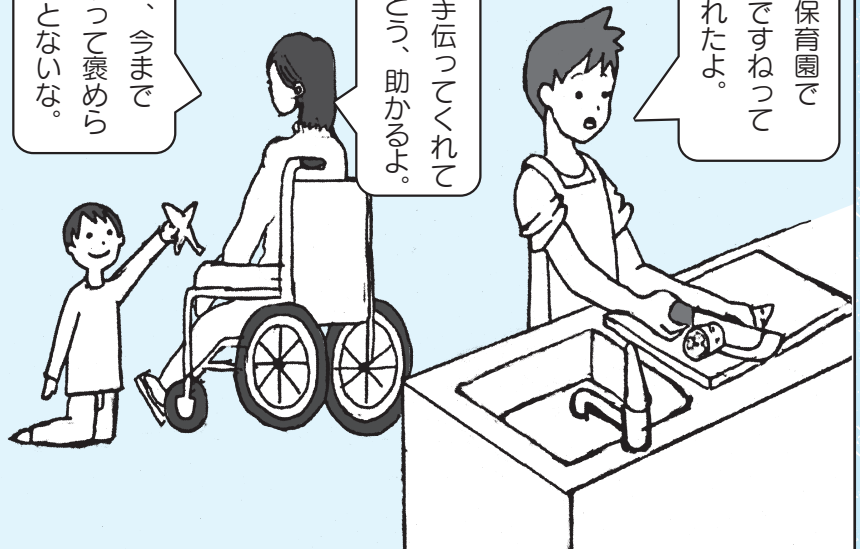
育メンかあ...いい響き。子育てに家事に頑張ってるもんなあ。



⑥ 今日、保育園で育メンですねってほめられたよ。

いつも手伝ってくれてありがとう、助かるよ。

でも私、今までそつやって褒められたことないな。



今まで夫婦で協力しながら家事に子育てに頑張ってきた。頑張った私は「育メン」とほめられ、毎日家事をする妻には「育メン」などの言葉はない。女性が家事をすることが前提にあるのかもしれない。

育児と家事は大変だ。今まで手伝ってあげているという意識はなかったらどうか。「育メン」って何だろう…。子どもたちの笑顔を見られる瞬間を大事に、今日も妻と一緒に家事と育児を楽しみたい。

広報ちくしの「人権問題特集号」 12月1日号アンケート用紙

(当てはまるものに○をつけて下さい。)

- 1 「人権問題特集号」は……①よかった ②まあよかった ③あまりよくなかった ④よくなかった
- 2 心に残った内容は……①「いじめのない筑紫野市をみんなでつくろう!」 ②「娘と私にできること」
③「アルハラになっていませんか?」 ④「無知こそ差別の始まり」
⑤「地域デビュー」 ⑥「頑張れ「育メン」」
- 3 感想をお聞かせ下さい。

人権問題特集号 アンケートのお願い

筑紫野市の大きな施策「人権尊重のまちづくり」への行動のヒントにつなげていただきたいという思いで本年度も広報ちくしの「人権問題特集号」を発行いたしました。つきましては、市民の皆様から感想などをいただき、今後の編集に生かしていきたいと考えています。趣旨をご理解のうえご協力をよろしくお願いいたします。

○アンケート回答の方法(※切12月20日)

- ① F A X : 上のアンケート用紙に記入のうえ以下の番号に F A X 下さい。
・筑紫野市教育政策課人権・同和教育担当：(092)923-9644
- ② 郵 送 : 上のアンケート用紙に記入のうえ以下の住所にご送付下さい。
・筑紫野市教務課人権・同和教育担当:〒818-8686 筑紫野市石崎一丁目1番1号
- ③ メール : jinkendouwa@city.chikushino.fukuoka.jp
- ④ 筑紫野市ホームページ:

以下の手順で「広報ちくしの 人権問題特集号」に入ってください感想をお寄せ下さい。

「担当部署から探す」→「教育政策課」→啓発冊子「広報ちくしの 人権問題特集号」

※右のQRコードを携帯電話・スマートフォン等で読み取るとアンケートページにつながります。



★ 編集後記 ★

2020年夏、東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。それぞれの出場選手が自己ベストを出すことが目標とされています。また一方では、文化・宗教・人種国籍・性的指向・言語・障がいの有無などの多様性を認め合い、ともに生きていく社会を育む契機とすることも目標とされています。

私たちの身の回りでも、人種、信条、性別、社会的身分、生まれた地域などで、見下したりしている例はないでしょうか。一人ひとりが大切にされる人権尊重社会の実現のため、まずは、日常の言動を見つめなおし、自分にできることから始めていきましょう。

2019年12月1日発行

広報ちくしの「人権問題特集号」

■編集発行

筑紫野市

筑紫野市教育委員会

筑紫野市同和教育研究会

筑紫野市同和問題啓発資料編集委員会

■問い合わせ先

筑紫野市教育委員会教育政策課

TEL:(092)923-1111

■印刷

株式会社 コーユービジネス